鳥海讃歌

ＧＴＨ通信　第２５号　令和２年９月１日（火）
校長室より

素人になろう！

高校の先生は、教科の専門性を活かして、毎日の授業を行っています。先生が玄人（教科指導のプロ）とすれば、生徒は素人（教科の内容を理解しようと授業を受ける存在）です。玄人と素人の関係は、学校教育の基本となる前提です。教える側の教師がプロ意識を持って、生徒の知的好奇心や興味・関心を引き出すために、教材研究を進めて授業に臨みます。
その際、単に知識を注入しただけでは、教えたことにはなりません。これからは、「自ら考え表現する力」を育成することが強く求められます。
令和４年から始まる新学習指導要領では、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力、人間性」の三本柱を育てるため、「主体的・対話的で深い学び」を実践していくことになります。アクティブ・ラーニングの手法を活用しながら、「探究力」や「論理力」を鍛える教科・科目の内容を充実していかなければなりません。

このような大きな改革の時期に、私の年代も含めて大学受験を経験した教師は、過去の自分の財産を整理し、取捨選択しながら新たなチャレンジをしていく岐路に立っています。教師一人ひとりが、玄人意識から素人の心境で謙虚な気持ちになり、文部科学省や秋田県教育委員会が提言している、教育改革の根幹にある「育てたい人間像」を仁賀保高校の特性にマッチさせ、スペシャルでオリジナルな教育活動をつくり上げてほしいと願います。

プロ意識を捨て去るのではなく、素人に立ち返って、「どうすれば生徒が三本柱をバランス良く育成出来るか？」試行錯誤しながら研修を進めましょう。
生徒諸君にお願いします。掛け替えのない高校生活で、授業を通して達成感や爽快感を感じることができるように、あらかじめ「なぜ？」を意識してください。「どうして？なぜ？」の自問自答は、学びの第一歩です。

素人は「知ろうと欲する人」なのです。師友もろとも、「素人」を「知ろう人」と認識し、謙虚なって、積極的に学び合いましょう。

偏差値から経験値へ、経験知から実践知へ

偏差値という概念は、高校入試や大学受験につきものです。相対化によって自分の実力や合格可能性を測る指標です。しかし一方で、他人との比較によって、偏差値の高低で価値基準が固定化され、人間の潜在能力を発揮できない場合もあります。

仁高生には、「偏差値を意識するな」などと、押しつけません。私は、人とくらべて自分を相対化するよりも、仁賀保高校での学びを通して、自分の成長度を絶対化してほしいと思います。本校で提供する学びの中には、人生の達人を教師にお招きする場面が多くあります。鳥海山の恵みを受けて心おおらかに、豊かに生きている人々、この地域をこよなく愛する人々、いつも仁賀保高校を応援してくれる地域の皆様等、沢山の知恵者の力をお借りして、スペシャルな授業が設定されています。今後も益々この観点で、学びの裾野を拡げて行きたいと思います。仁賀保高校の学習では、これまでの一般的な思考回路からの脱皮が必要です。この地域には、教科書では学べない教材が眠っています。私たちは、そこから得た知識や知恵を活用して、未来のステージで何か実践出来ることはないか？探究していくチャンスを得ています。

人間が、与えられた場所で適切な判断をくだせる認識と能力を「実践知」と言うならば、仁賀保高校は、この「実践知」を育成するための教育活動を進めて、地域に貢献する学校になりたいと思います。

★　アイコンタクツ（ｉｃｏｎｔａｃｔ２）を心がけてください。目と目で通じ合い、face to face で向き合いながら、「考えながら行動する」笑顔の素敵な人間たれ！

★　メモをとる習慣を確立しましょう。生徒手帳をフル活用してください。メモをとる習慣は、将来必ず役に立ちます。

★　意識力＝意思・意志（瞬間）＋気力（持続）です。意識力を育成することで、学ぶ力が増幅します。考えたことを継続してやり抜きましょう。

★　ＧＴＨは、「疑問→探究→発見」という学びの方程式です。

★　「自己有用感」を高めてください。そのためにあなたは何に挑戦しますか?
自分が誰かの役にたつためには、感謝の心と自己肯定感を持つことが大切です！

★　ＮＰＴは仁賀保高校プログラミング思考の略称です。ＮＰＴを意識して、学びを活性化しましょう。プログラミングは、Trial＆Errorで進めましょう！